

■朝倉義景 越前の戦国大名。公家嗜好で、足利将軍とつながるも優柔不断、織田信長と敵対し、敗れて自決、朝倉家は滅亡。

あさくらよしかげ

..... 1533= 朝倉孝景の唯一の実子に生まれる。母広徳院は隣国若狭武田氏の娘。幼名は長夜叉丸。

今川義元登場1542= 9歳:

鉄砲伝来..... 1543=10歳:

元服すると、孫次郎延景と称した。

上杉謙信登場1548=15歳: 父孝景が急死し、領国支配を受け継ぐ。若年のため、(曾祖父氏景の弟)朝倉宗滴教景が補佐。

ザビエル来日1549=16歳: 前年に正室を迎えた細川晴元の娘が、女兒を出産した直後に死去。

大内布教許可1550=17歳: 20年以上に渡って一乗谷の儒学興隆に貢献してきた清原宣賢が当地で客死。近江国境の敦賀郡に出兵、

織田信長登場1551=18歳:

大友布教許可1552=19歳:

*歴代朝倉家当主の中では異例の扱いで、将軍足利義輝の偏諱を受け義景と改名し、左衛門督に任官、2人目の正室として迎えた細川義種の娘(近衛殿)は、絶世の美女で寵愛したが、子のできる兆しがなかったため、母に仕えていた小宰相の局を側室に迎え、別宅において密かに通い、寵愛するようになって、正室の召仕から呪詛される事態に。当初、越後の上杉謙信と攻守同盟を結び、謙信の川中島出兵に呼応して、老将朝倉宗滴教景を総大将に、加賀一向一揆討伐に出兵するが、教景が病に倒れて、拮抗状態になり、*将軍義輝の和平工作に、本願寺も応じて、和議が成立、直後に、教景は死去、以後、自ら政務をとる。この年、織田信長が尾張の統一支配を達成。強力な補佐であった教景を失ったことを繕うように、一乗谷に下向してきた(宗長の弟子)宗義を迎え、家臣とともに、連歌を興行、初の子阿君が誕生するも、側室小宰相の局が死去して傷心、その慰めもかねて、武威を示すべく、かの源頼朝のものに匹敵するよう、大規模な犬追物を実施し、弱体化し、家臣の反乱に晒された若狭守護武田義統を守るべく、朝倉景紀を出陣させて平定。

大陸邦民事件1555=22歳:

..... 1556=23歳:

..... 1558=25歳:

大友内閣開港1559=26歳:

桶狭間の戦い1560=27歳:

川中島最激戦1561=28歳:

大村長崎開港1562=29歳:

大村純忠受洗1563=30歳:

川中島の戦い終1564=31歳:

将軍義輝自刃1565=32歳:

..... 1566=33歳:

岐阜楽市楽座1567=34歳:

義秋を慕って下向してきた関白二条晴良を饗応すべく、自らの連歌の師細川藤孝の発句で、連歌会を興行。信長は美濃を落とし、岐阜を居城にする。家臣の堀江父子が、一向一揆を後ろ盾に謀叛を起こしたため、攻撃し制圧(堀江の変)。義統が死去すると、武田氏の居城を攻撃、武田氏を滅亡させて、一段落。ようやく、*義秋を一乗谷に迎え入れ、御所安養寺に伺候、この時も、幕府全盛時代の管領出仕の儀式並みであったといい、返礼として、朝倉屋形への御成りとなった。義秋の尽力で、加賀の一向一揆とも和睦、教如に娘を嫁がせる政略結婚によって、共通の敵の織田信長に備えることになった。

織田信長入京1568=35歳:

母が二位の尼に任じられ、義秋には征夷大将軍の院宣が届けられ、将軍義秋の最初の御成りは、目を奪う行列で、義景が加冠の役を務めて元服し、義昭と改名。次いで、将軍義昭の御所に召され、五撰家以外に無かった特例であったが、直後に、阿君が死去(毒殺といわれる)し悲嘆。それを見て、朝倉氏には頼めないと考えたのか、義昭が、美濃の織田信長のもとに居を移すと、信長は直ちに、義昭を奉じて入京、たちまち畿内を平定した信長の天下統一のための最初の攻撃目標になり

京都宣教許可1569=36歳:

石山合戦始1570=37歳:

慰めるべく集められた美女のうちから、小将(諏訪殿)を寵愛、酒池肉林に溺れ、現実から遠ざかる。男子愛王丸が誕生。本願寺、浅井長政、武田信玄らと反信長勢力を形成し、天筒山の合戦、姉川の戦いなど、再三、信長と矛を交えたが、

室町幕府滅亡1573=40歳:

刀禰坂の合戦に敗れほぼ全滅、ついには部下にも裏切られ、大野賢松寺に移ったところで、自刃した。